

乳製品需給等情報交換会議（主な意見）

日時：平成 28 年 9 月 27 日（火）13：30～15：15

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議室

意見：

（全国菓子工業組合連合会）

- ・地方組織より、仕入れ業者から「年末バターが不足しそうだ」、「改善されているがまだ心配」と言われたとの話を聞いたが、仕入れ業者の商売上の工夫かもしれない。皆が不足すると思わないようにすることが大事であり、今日の説明や追加輸入は不安を払拭する大きな材料になった。
- ・国産バターのニーズは高い。国産の品質に近いバターを作っている国から輸入してほしい。また、価格ももう少し安くなればと思う。

（新日本スーパーマーケット協会）

- ・小売店では、陳列量が少なくすむショーケースになってきているので、業務用として購買にこられると、一時的に棚が空になることはあり得る。このため、業務筋の大量買いを防ぐために「お一人様一つ限り」をつけている可能性がある。
- ・小売用バターは、全体的な需給バランスが取れていれば安定供給されるものであり、今年は問題ないとの見通しはありがたい。
- ・このような会議で、多くの関係者が集まり需給状況を注視していれば、平成 26 年のようなバター不足は起こらないだろうと思っている。

（卸売業者）

- ・メーカーからの供給量は、前年と同程度であるとのことだが、仕入れは前年実績の 100%と割り当てられるので、業者は何とか今年度分を消化しようとする。これまでの分を消化し切れていない業者は、12 月に消化しようとするだろう。引きが弱いということは、消費者に十分な量が行き届いていると言えるかと思う。
- ・北海道産バターが十分出回っていることから、外国産バターや都府県産の高価なバターの販売は前年を割っている状況。

(全国消費者団体連絡会)

・今年度の需給は大丈夫との話は理解したが、今後もバターは需給を心配し続けられないといけない不安定な商品という不安が残っている。

(ホクレン農業協同組合連合会)

・台風の影響で、ここ最近の北海道の生乳生産量は前年割れとなっている。飼料にも影響があり、影響の長期化が懸念される。影響が大きくならないよう、様々な取組を行い、生産を喚起しているところであり、バター等、牛乳乳製品の安定供給に努めたい。

(日本洋菓子協会連合会)

・今年は昨年並みであれば安心である。しかし、日本の気候が大きく変わってきており、今後、生乳生産に影響が出てくるのではないかと。長い目で見ると、この先、日本のバターはどうなるのかという不安が残る。

・ヨーロッパ産は国産品に風味に近いが、オセアニア産はクセが強く、使用しづらいとの声がある。オセアニア産以外のバターの輸入が可能であるならば検討していただきたい。

(全日本洋菓子工業会)

・バターが不足した平成 26 年は、農林水産省から十分供給できると聞いていたが、結果として不足し、その原因が不明のままであった。机上の計算どおりにならないとの思いがある。昨年は、バター不足が解消されたが、その要因も特定できていない。今年は、川上から川下の関係者が 1 つのテーブルで話し合えるので、会員にも自信を持って説明できる。今後は、原因も特定できると考えている。

(日本パン工業会)

・4千トンの追加輸入もあり、バターの全体的な供給は心配していないが、国産バターは、今でも 1～2割程度の供給制限を受けている状況。使用量が多いので、将来的に国産バターの安定供給が見込めるのか不安である。国産バターの安定供給をお願いしたい。

(中央酪農会議)

・東日本を中心に予想より暑くならなかったこと等から、都府県の生乳生産は当初の見込みよりもよくなっている。北海道の減産が心配との話があったが、都府県と合わせると、今年度は J ミルクの見込み程度になるのではないかと。